

## 玄奘三蔵像

玄奘三蔵院内の赤と緑の2階建ての塔の中にある玄奘三蔵像は、20世紀の有名な仏像の彫刻家である大川暎一によって作られました。彼は右手に筆を持ち、左手には経典を持っています。このことから、この彫刻がインドでの17年に渡る旅と調査を終えた後、中国に戻り仏教経典の翻訳を行なっている玄奘を表現したものです。

彫刻の下には、1940年代に中国から持ち込まれた玄奘三蔵の頭蓋骨の断片が祀られています。元々は東京の北、埼玉県の寺院に奉られていましたが、後に薬師寺に移されて1991年に仏塔内に祀られました。

玄奘塔正面にかかる額には「東へ決して戻らない」という意味で「不東」と書かれています。これは、インドで経典を見つけ確保するまで中国には決して戻らないという玄奘の誓いに基づくものであり、忍耐を象徴するモットーのようなものになっています。

確かに、玄奘は旅の途中で何度も任務を完了することができないのではないかと疑ったと言われています。彼は一人で旅をし、道から逸れてしまうことも多かったが、途中で自分の間違いに気付き、それらを修正するよう努めました。最後に、彼は成功し、逆境に直面した彼の忍耐の物語は、仏教の教えと、悟りを得るために努力する人々が直面する困難の象徴としばしば見なされます。